

危機管理課

1 防災対策

(1) パトロール

ア 急傾斜地パトロール

- (ア) 実施日 令和6年7月2日(火)、3日(水)、4日(木)
- (イ) 場所 市内点検箇所(64箇所)
- (ウ) 参加機関 産業振興部農地整備課、都市整備部道路河川課、プロジェクト推進課、建築住宅課、吉川支所地域振興課、消防署警防課、吉川分署、総合政策部危機管理課
- (エ) 地元立会 危険箇所の共通認識を図るため、点検箇所の対象自治会長へ周知し、一部地区において地元自治会役員とともにパトロール点検を実施した。

(2) 会議及び協議会

ア 三木市防災会議(構成委員29人 うち女性委員10人)

- (ア) 開催日 令和7年2月25日(火)
- (イ) 出席者 防災会議委員 26人
- (ウ) 内容 三木市地域防災計画の修正、三木市災害時受援・応援計画の修正、避難情報発令の判断・伝達マニュアルの修正に関する審議

(3) 大雨・台風・地震等に伴う配備等

年 月 日	気象状況、発令等	配備体制等
令和6年5月28日(火)	大雨に伴う (大雨警報、洪水警報)	災害警戒本部
令和6年11月2日(土)	大雨に伴う (大雨警報、洪水警報)	情報収集体制

(4) 食料の備蓄

市備蓄計画に基づき、アルファ化米、ミルクビスケット等の備蓄食料を購入した。

- ア アルファ化米 4,800食
- イ ミルクビスケット 816缶
- ウ 粉ミルク 15kg
- エ 災害備蓄保存用PET飲料水(10年保存蒸留水) 2,208本
- オ 液体ミルク 240缶

(5) 情報通信機器の保守管理

衛星携帯電話について、有事の際に支障がないよう定期点検を実施した。

- ア 衛星携帯電話 3台(外部アンテナ2基。付属品含む。)
- イ 移動系防災行政無線(デジタル) 基地局2 陸上移動局26

(6) 三木安全安心ネット(ひょうご防災ネット)

市民への情報伝達の手段の一つとして、災害情報や緊急情報(行方不明者情報・不審者情報)等をメール配信する「三木安全安心ネット」の運用と登録加入の啓発を行った。

- ・令和7年3月末現在 登録者数 7,640人(前年比248人減)
- アプリ登録者数 11,139人(前年比1,158人増)

(7) 全国瞬時警報システム(J-ALERT)

消防庁からの緊急情報を通信衛星を介して受信し、自動起動によるエフエムみっきいへの割込放送、庁内放送、市幹部へのメール配信を行う全国瞬時警報システムの管理運用を行った。

また、システムが適正に動作していることを確認するため、全国瞬時警報システムを活用した全国一斉情報伝達試験にも参加した。

- ・第1回 令和6年5月22日(水)
- ・第2回 令和6年8月28日(水)中止
- ・第3回 令和6年11月20日(水)

・第4回 令和7年2月12日(水)

(8) 新たな災害時応援協定の締結

ア 株式会社 shoichi (ショーチ)

(7) 締結日 令和6年4月1日(月)

(4) 内 容 災害時における防災活動協力に関する協定(旧上吉川小学校)

イ 株式会社マルカ

(7) 締結日 令和6年5月13日(月)

(4) 内 容 災害時等における無人航空機の運用に関する協定

(9) 防災意識の啓発

平時からの防災に関する市民意識の高揚を図るため、防災情報の提供に努めた。

ア ホームページやX(旧ツイッター)を用いて防災に関する情報等を提供

イ 広報みき6月号において、防災に関する情報を提供

ウ 市民が集う防災研修や訓練において、防災に関する情報を提供

2 防災訓練・研修

(1) 三木市総合防災訓練

台風の接近に伴う大雨により、市内で河川の氾濫や土砂災害などの発生を想定した住民参加による自主防災活動に主眼を置いた訓練を実施することにより、自主防災組織を中心とする地域防災活動の活性化及び各防災関係機関との連携強化に努めた。

また、子どもから高齢者まで参加・体験できる「防災フェスティバル」を同時開催し、市民の防災意識の高揚を図った。

ア 開催日 令和6年9月29日(日)

イ 場 所 三木山総合公園

ウ 訓練参加者 約650人(フェスティバルのみの参加者及び見学者等を除く)

(2) 地域防災訓練

自主防災組織や地区単位で実施する地域防災訓練等に危機管理課も参加し、地震や風水害などに対する意識啓発、注意を喚起する講話、防災訓練の準備、訓練進行の支援、物資の提供等を行った。

ア 地域や校区単位で行った地域防災訓練等

(7) 令和6年4月28日(日) 志染地区防災研修

(4) 令和6年5月26日(日) 別所地区防災研修

(7) 令和6年7月13日(土) 吉川まちづくり協議会防災研修

(エ) 令和6年7月19日(金) 細川町自主防災訓練

(ホ) 令和6年10月12日(土) 緑が丘町防災訓練

(ハ) 令和7年1月19日(日) 自由が丘連合自主防災訓練

(キ) 令和7年3月2日(日) 三木南地区防災訓練

イ 各自治会単位の自主防災組織で行った防災訓練

(7) 実施組織数 87地区/199地区(43.7%)

(4) 内 容 情報伝達・安否確認・避難誘導・消火・救出救助・心肺蘇生 他

(3) Lアラート県域全体訓練

自治体等が発する地域の災害情報を集約し、テレビ等で一括配信しているLアラートの情報発信訓練を行い、兵庫県フェニックス防災システムとの連携方法を確認した。

・令和6年5月30日(木)

(4) 移動系防災行政無線通信訓練

災害時及び緊急時において、情報連絡を迅速かつ的確に行うため、イベント(三木金物まつり・みっきい夏まつり)を通じて職員への無線の通信訓練を実施した。

また、危機管理課執務室の無線より、指定避難所となる市立公民館に設置している無線において、通信訓練を実施した。

(5) 兵庫県情報伝達訓練(災害時情報伝達体制配信テスト)

県機関、市町、市町消防本部及び防災関係機関を衛星通信で結ぶ兵庫衛星通信ネットワーク上の衛星 FAX を活用した報道関係機関への情報伝達体制の確認と通信連絡訓練を行った。

ア 第 1 回 令和 6 年 5 月 7 日(火)

イ 第 2 回 令和 6 年 9 月 2 日(月)中止

ウ 第 3 回 令和 7 年 1 月 6 日(月)

(6) 国民保護安否情報システム一斉訓練

消防庁で運用している武力攻撃事態等における安否情報収集・提供システムの操作方法の確認と習熟を目的として、全国一斉の訓練を実施した。

ア 令和 6 年 5 月 31 日(金) 第 1 回訓練

イ 令和 6 年 11 月 5 日(火) 第 2 回訓練

(7) 学校防災との連携

避難施設である各小中学校等の防災担当者と緊急時の体制や連絡先などの確認を行い、災害時における連携強化を図った。

ア 小中学校・特別支援学校の防災訓練

火災や地震等を想定した避難訓練など全 20 校で実施

(ア) 令和 6 年 7 月 5 日(金) 三木特別支援学校地域総合防災訓練

(イ) 令和 6 年 10 月 7 日(月) 三木東中学校地域総合防災訓練

イ 学校訪問(学校との避難所情報共有)

(ア) 訪問期間 令和 6 年 8 月 20 日(火)、23 日(金)、26 日(月)、27 日(火)

令和 6 年 12 月 23 日(月)、24 日(火)、25 日(水)、26 日(木)

(イ) 確認事項 連絡先、鍵開錠者、開放区域(高齢者、障がい者、乳幼児のスペース)及び備蓄物資等について、確認事項シートを活用しながら確認した。また、特設公衆電話設置用の差込口の位置、新型コロナウイルス感染者用スペース及び動線を確認したほか、ペットの飼育場所を指定した。

(ウ) 訪問した学校数 小学校 13 校、中学校 6 校、特別支援学校 1 校

ウ 第 1 回学校防災連絡会議

(ア) 開催日 令和 7 年 2 月 20 日(木)

(イ) 内 容 小中学校、特別支援学校の防災担当者が出席し、各校の防災訓練取組内容についての報告

(8) 職員研修

ア 第 1 回新任職員研修

(ア) 実施日 令和 6 年 4 月 3 日(水)

(イ) 内 容 新任職員研修の一環として、三木市の防災について講話し、市職員としての防災意識の向上とスムーズな防災活動の実践を図った。

(ウ) 参加者 19 人

イ 避難所指定要員の防災研修会

(ア) 実施日 令和 6 年 6 月 25 日(火)、26 日(水)

(イ) 内 容 災害に対する備え、各避難所の連絡網及び鍵の確認、避難所開設の時期、避難所セット、避難所運営マニュアル、HUG 訓練、電気自動車の給電等の研修を実施した。

(ウ) 参加者 138 人

ウ 避難所指定要員の現地確認会

(ア) 実施日 令和 6 年 7 月 16 日(火)、17 日(水)、18 日(木)、19 日(金)

(イ) 内 容 避難所指定要員が、連絡先、鍵開錠者、開放区域(高齢者、障がい者、乳幼児のスペース)及び備蓄物資等について、確認事項シートを活用しながら確認した。また、特設公衆電話設置用の差込口の位置、新型コロナウイルス感染者用スペース及び動線を確認したほか、ペットの飼育場所を指定した。

(ウ) 参加者 49 人

エ 避難所指定要員のタブレット操作説明会

(ア) 実施日 令和 6 年 9 月 9 日(月)、10 日(火)

- (イ) 内 容 避難所指定要員に防災タブレット端末の操作を説明した。
- (ロ) 参加者 22 人

3 自主防災組織育成事業

(1) 自主防災組織資機材等整備補助金

自主防災組織の育成強化及び防災活動の円滑な推進を図るため、防災資機材等の購入に係る費用の助成を行った。

ア 補助実績 36 自治会 4,106 千円

イ 補助内容 保管庫、防災用資機材（テント・発電機等）、備蓄食料（飲料水・アルファ化米等）購入助成

(2) 地域防災リーダーの育成・支援

兵庫県が実施するひょうご防災リーダー講座の修了者や防災士の資格保有者が会員となり構成されている三木防災リーダーの会の事務局として、地域で活動するリーダーの育成やその活動に対する支援を行った。

(3) 三木市自主防災組織育成研修会

地域住民による自主的な防災活動が極めて重要であることに着目し、防災に関するより幅広い知識の習得や自主防災組織の指導者を育成するため、毎年、自主防災組織育成研修会を開催している。

令和 6 年度は、大震災から学んだ教訓を風化させることなく、次世代へ伝えるため、自助・共助の大切さについて、体験談を交えながら「大震災の教訓から学ぶ」をテーマに講話を実施した。

ア 開催日 令和 7 年 1 月 25 日（土）

イ 場 所 三木市文化会館小ホール

ウ 内 容

(ア) 題名 「阪神・淡路大震災から 30 年」～震災の教訓を未来へつなぐ～

(イ) 講師 語り部 KOBE1995 柴田 大輔 氏

エ 対象者 自主防災組織、民生委員・児童委員、民生・児童協力委員、消防団、防災リーダー

オ 参加者 340 人

4 災害時要配慮者の支援

(1) 避難行動要支援者支援体制の確立

災害発生時に自力での避難が困難で支援を要する市民のため、市の福祉課及び民生委員・児童委員等との連携のもと、地域での支援体制づくりを推進した。

(2) 命のカプセル

避難行動要支援者や希望者に対し、救急時及び災害時に本人などが持病や既往症などで必要な説明ができない場合に備えて、救急処置及び医療支援を迅速かつ適切に行い、救命活動に活用するため「命のカプセル」を配付した。また、チラシ配布等により命のカプセル事業の推進活動を行った。

命のカプセル配付数 2,824 人（令和 7 年 3 月 31 日現在）

(3) 外国人に対する防災対策

市内在住の外国人への防災対策・支援として、三木市国際交流協会と連携を図りながら、次のような活動を行った。

ア 外国人のための防災チラシ（10 か国語対応）配布

イ ひょうご E ネット（外国語版ひょうご防災ネット）への登録促進（12 か国語対応）

ウ 日本語教室及び企業に対する生活オリエンテーションへの参加

エ 三木市総合防災訓練への参加

オ 指定避難所へのコミュニケーションボード配置（6 か国語対応）